

2021年3月期及び2022年3月期の業績説明



2021年5月6日



石塚硝子株式会社

ISHIZUKA GLASS Co., Ltd.

1. 2021年3月期決算内容

- 連結業績ハイライト
- ガラスびん関連事業の固定資産の減損損失
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2022年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

連結業績ハイライト

- ✓ 新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、大部分の主要セグメントの売上高が減少したことに加え、ガラスびん関連事業の固定資産の減損損失（P.3）の計上により、各利益とも大幅に前期を下回る。
- ✓ 業績予想対比では、売上高は計画通り進捗。営業赤字を回避するため、設備投資の圧縮並びに経費削減などグループを挙げてのコスト削減に取り組み、営業利益及び経常利益は増益。
- ✓ 配当につきましては業績状況並びに現時点では財務体質の強化を図ることが最優先と考え、誠に遺憾ではございますが期末配当実施の見送りを本日開催の取締役会で決定させていただきました。

（単位：百万円）

項目	2020/3月期 実績	2021/3月期 業績予想	2021/3月期 実績	対前期比		対業績予想比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	73,745	65,000	64,940	▲8,805	▲11.9%	▲59	▲0.1%
営業利益	2,497	0	852	▲1,644	▲65.9%	852	—
営業利益率	3.4%	—	1.3%	—	▲2.1%	—	1.3%
経常利益	2,165	100	1,153	▲1,011	▲46.7%	1,053	1,053.8%
当期純利益 ※	1,180	▲250	▲3,023	▲4,203	—	▲2,773	—
配当金（円）	48	未定	0	▲48	—	—	—

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

ガラスびん関連事業の固定資産の減損損失

- ✓ 国内のガラスびん市場は消費者ニーズの変化や他素材容器への置換などにより縮小傾向。
- ✓ 加えて新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う飲食店の時短営業などの影響により厳しい市場環境。
 - 様々な経営合理化策を講じてきましたが、この状況下において、定期更新を近々迎える姫路工場の溶解炉について新たな更新投資は難しいと判断し、岩倉・姫路の2工場体制から岩倉1工場体制への再編を決議。
 - 本件に伴う損失として、減損損失3,648百万円を特別損失に計上。
- ✓ 生産停止後の姫路工場については、遠東石塚グリーンペット(株) (台湾の遠東新世紀グループと当社が共同出資) がリサイクルPET工場を同工場の敷地内に建設予定。
- ✓ また、同工場に当社子会社である日本パリソン(株)の工場建設も検討しており、PETボトルに期待される資源循環型の取り組みを推進。

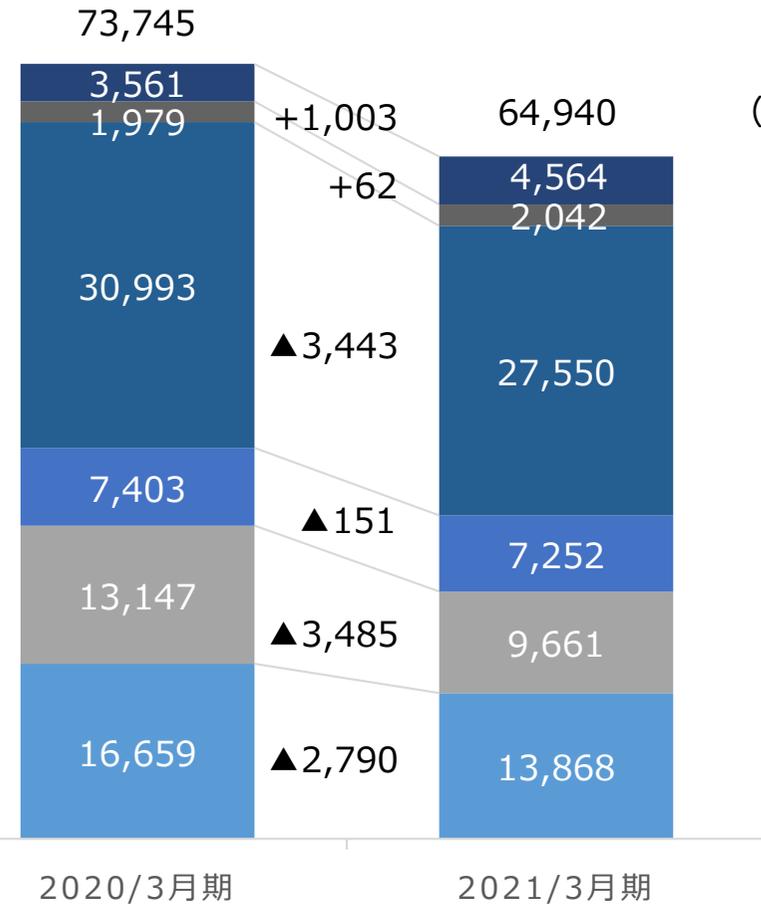
用途	場所	種類	金額
ガラスびん事業用資産 (処分予定資産)	兵庫県姫路市	機械装置及び運搬具等	3,648百万円 (注)

(注) 建物及び構築物636百万円、機械装置及び運搬具2,710百万円、その他302百万円

セグメント別売上高

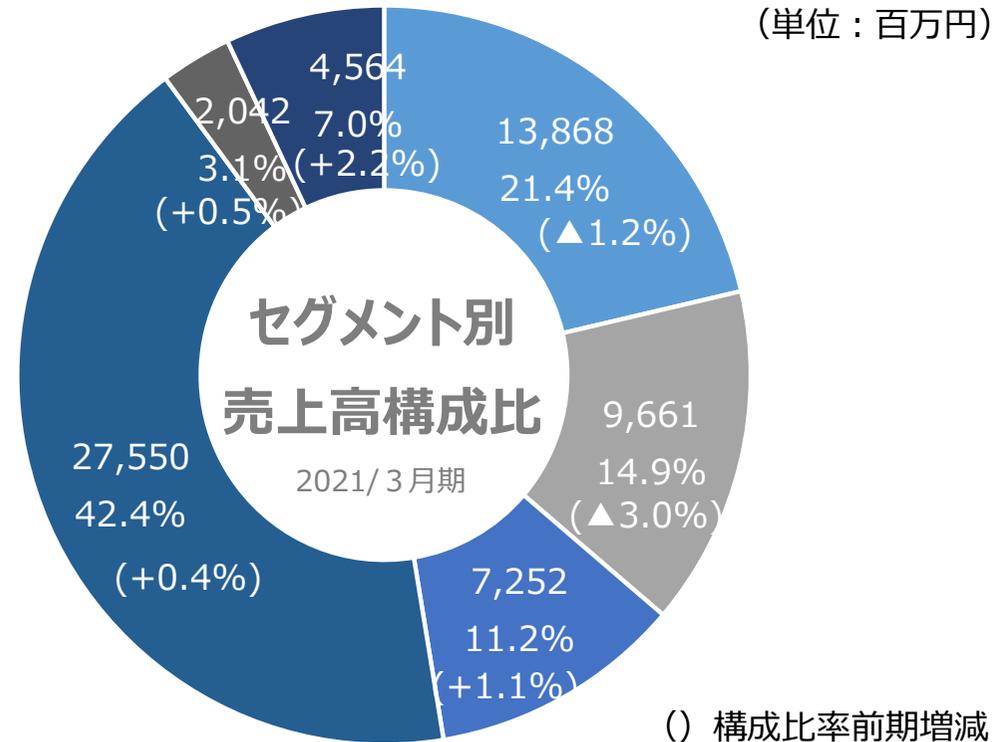
売上高

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



(単位：百万円)

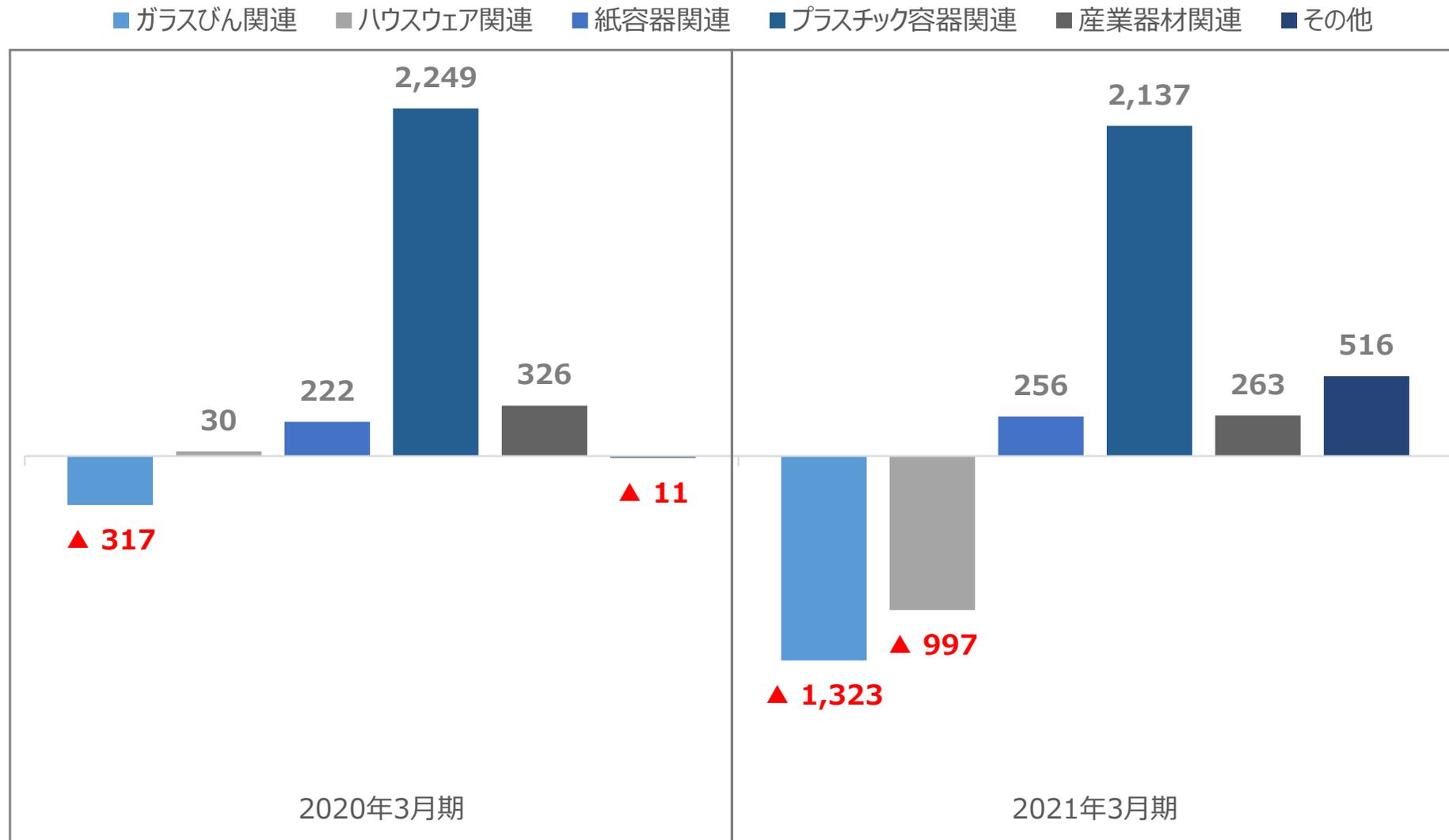
- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



() 構成比率前期増減

セグメント別営業利益

(単位：百万円)



セグメント別売上高

ガラスびん関連事業

売上高13,868百万円（前期比16.8%減）

- ✓ 飲食店用途向けのビールびんや清酒びん及び焼酎びん等の出荷が大幅に減少



ハウスウェア関連事業

売上高9,661百万円（前期比26.5%減）

- ✓ ガラス食器は、アルコールメーカー向けの業務用品及び景品の受注が減少したほか、一般市場向けの販売も落ち込む
- ✓ 陶磁器は、海外のエアライン及び国内外のホテル・レストラン向け並びに国内の企業向けの受注が減少



セグメント別売上高

紙容器関連事業

売上高7,252百万円（前期比2.0%減）

- ✓ 小学校の臨時休校による学乳向けの受注が減少
- ✓ テレワーク等による都市圏のオフィス需要が減少



プラスチック容器関連事業

売上高27,550百万円（前期比11.1%減）

- ✓ テレワークの実施などでオフィス街を中心に自動販売機やコンビニエンスストアでの販売が落ち込んだことにより、PETボトル用プリフォームの主要ユーザーからの受注が減少



セグメント別売上高

産業器材関連事業

売上高2,042百万円（前期比3.2%増）

- ✓ 巣ごもり需要の増加に伴い調理器用トッププレートの受注が増加



その他事業

売上高4,564百万円（前期比28.2%増）

- ✓ 抗菌剤は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響もあり、特に海外市場の需要が大きく増加したことにより販売を拡大
- ✓ 金属キャップは、医薬品向けの受注が増加



連結貸借対照表

(単位：百万円)

連結貸借対照表の主な変動要因

流動資産 36,366 (前期比+2,155) 受取手形及び売掛金+1,938、現金及び預金+873、 商品及び製品▲564	流動負債 23,996 (前期比▲3,494) 未払金▲2,286、短期借入金▲1,913、支払手形 及び買掛金+752
固定資産 43,944 (前期比▲4,471) 有形固定資産▲5,101、投資有価証券+703	固定負債 29,908 (前期比+2,524) 社債+2,526、長期借入金+755、リース債務▲809
繰延資産 253 (前期比+65) 社債発行費の増加	純資産 26,659 (前期比▲1,280) 利益剰余金▲2,847、その他有価証券評価差額金 +804、非支配株主持分+544
総資産合計 80,564 (前期比▲2,250)	負債及び純資産合計 80,564 (前期比▲2,250)

自己資本比率 28.6% (▲1.5%)

～トピックス～

- ✓ 固定資産の減損損失の計上による利益剰余金の減少などにより、自己資本比率は28.6%と1.5%減少。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症長期化のリスク対応として、手元資金の流動性を確保するため現金及び預金並びに有利子負債が増加。

連結キャッシュ・フロー

項目	2020/3月期 実績	2021/3月期 実績	増減	(単位：百万円)
営業活動によるCF	5,756	4,211	▲1,545	
税金等調整前当期純利益	2,118	▲2,672	▲4,790	
減損損失	—	3,648	3,648	
減価償却費	4,462	4,569	107	
運転資本の増減額（△は増加）※	▲1,470	▲925	545	
その他	646	▲409	▲1,056	
投資活動によるCF	▲5,419	▲4,376	1,043	
有形固定資産の取得による支出	▲5,405	▲4,490	915	
その他	▲13	114	127	
財務活動によるCF	▲1,238	1,107	2,345	
短期借入の増減額（△は減少）	587	1,770	1,183	
長期借入・社債の発行による収入	1,476	5,341	3,864	
長期借入の返済・社債の償還による支出	▲5,000	▲6,229	▲1,229	
セール・アンド・リースバック取引による収入	3,316	1,431	▲1,885	
リース債務の返済による支出	▲1,312	▲1,524	▲212	
連結範囲の変更を伴わない子会社株式の売却収入	—	811	811	
その他	▲306	▲493	▲186	
現金及び現金同等物	2,624	3,598	973	

※ 売上債権の増減額、たな卸資産の増減額及び仕入債務の増減額の合計

～トピックス～

- ✓ 当期の設備投資は大幅に縮小しているが、前期に実施したガラスびん関連事業の設備投資の支払があり、CFベースでは有形固定資産の取得による支出は微減に留まる。
- ✓ 紙容器関連事業を分社化し、王子HDへ株式譲渡により合併会社を設立したことにより、財務活動によるCFに「連結範囲の変更を伴わない子会社株式の売却収入」を計上。

1. 2021年3月期決算内容

- 連結業績ハイライト
- ガラスびん関連事業の固定資産の減損損失
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2022年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

通期業績予想

- ✓ 売上高70,000百万円、営業利益2,100百万円、営業利益率3%を見込む。
 - 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が事業ごとに大きく明暗が分かれてきましたが、赤字事業については営業黒字への転換、黒字事業については最低限前期並みの営業利益又は営業利益率の確保に向けて積極的な取り組みを推進。
 - 中期経営計画最終事業年度において基本方針に掲げた定量的目標である『営業利益率5%の達成』及び『非容器事業を連結売上高の10%まで拡大』の達成は難しい状況ですが、骨子である「営業利益率」、「非容器事業の売上高拡大」及び「グループ横断機能の更なる強化」を引き続き追求。
- ✓ 配当予想については2019/3月期の普通配当と同様の45円を想定。

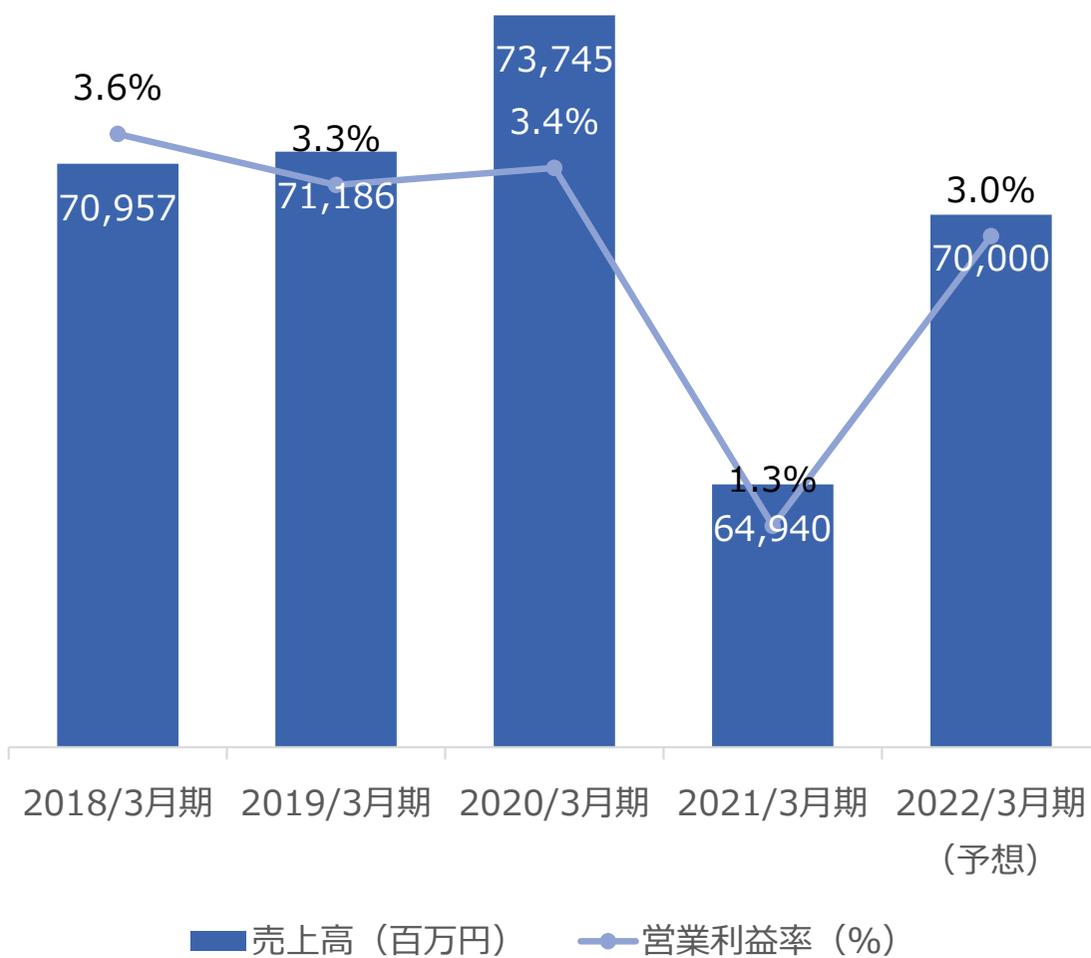
(単位：百万円)

項目	2020/3月期 実績	2021/3月期 実績	2022/3月期 業績予想	対前期比		対前々期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	73,745	64,940	70,000	5,059	7.8%	▲3,745	▲5.1%
営業利益	2,497	852	2,100	1,247	146.4%	▲397	▲15.9%
営業利益率	3.4%	1.3%	3.0%	—	1.7%	—	▲0.4%
経常利益	2,165	1,153	1,900	746	64.7%	▲265	▲12.2%
当期純利益 ※	1,180	▲3,023	1,700	4,723	—	519	44.1%
配当金 (円)	48	0	45	45	—	▲3	—

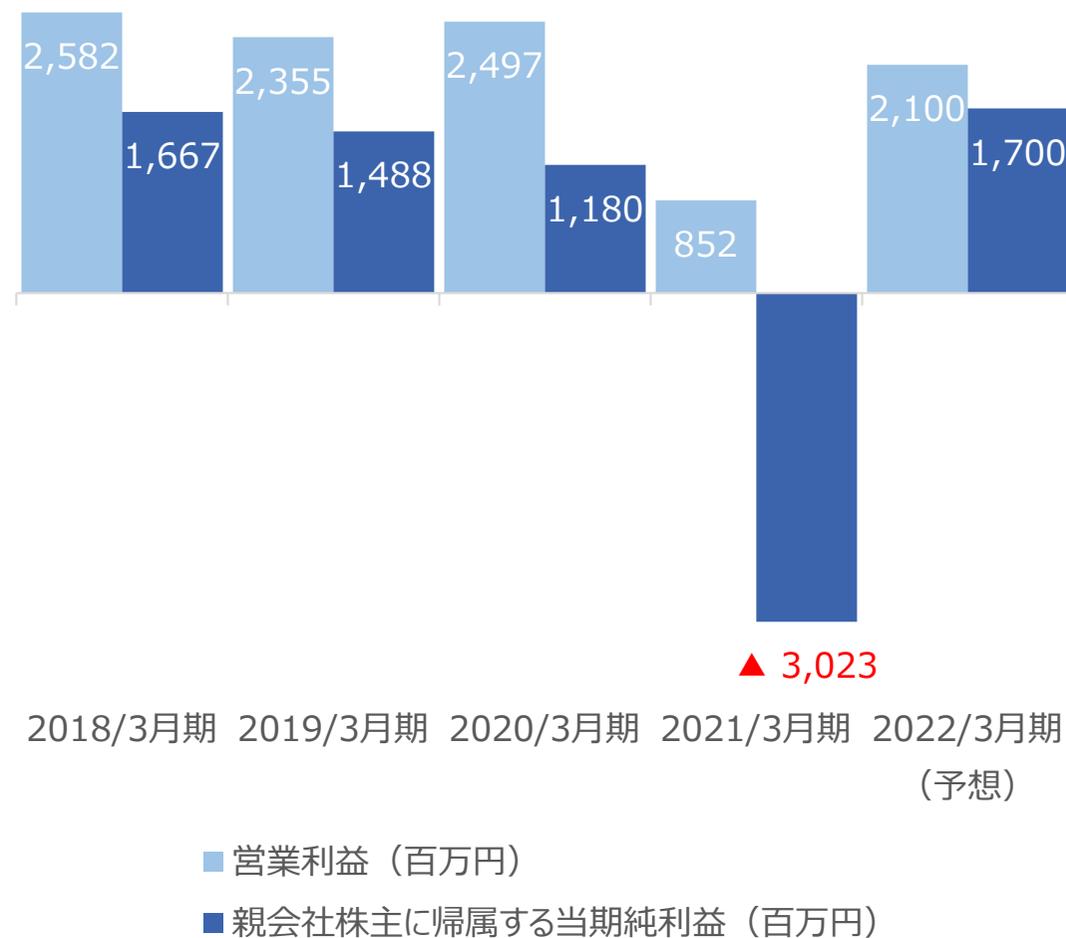
※ 親会社株主に帰属する当期純利益

連結業績推移

売上高及び営業利益率

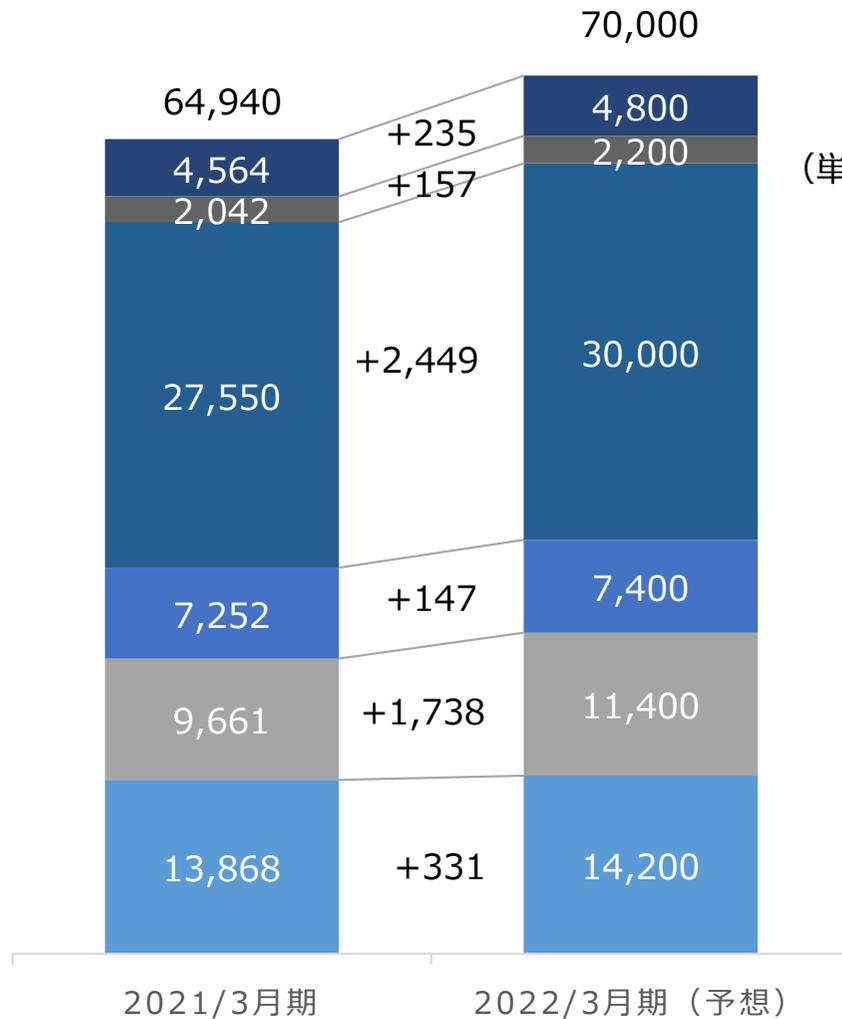


営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

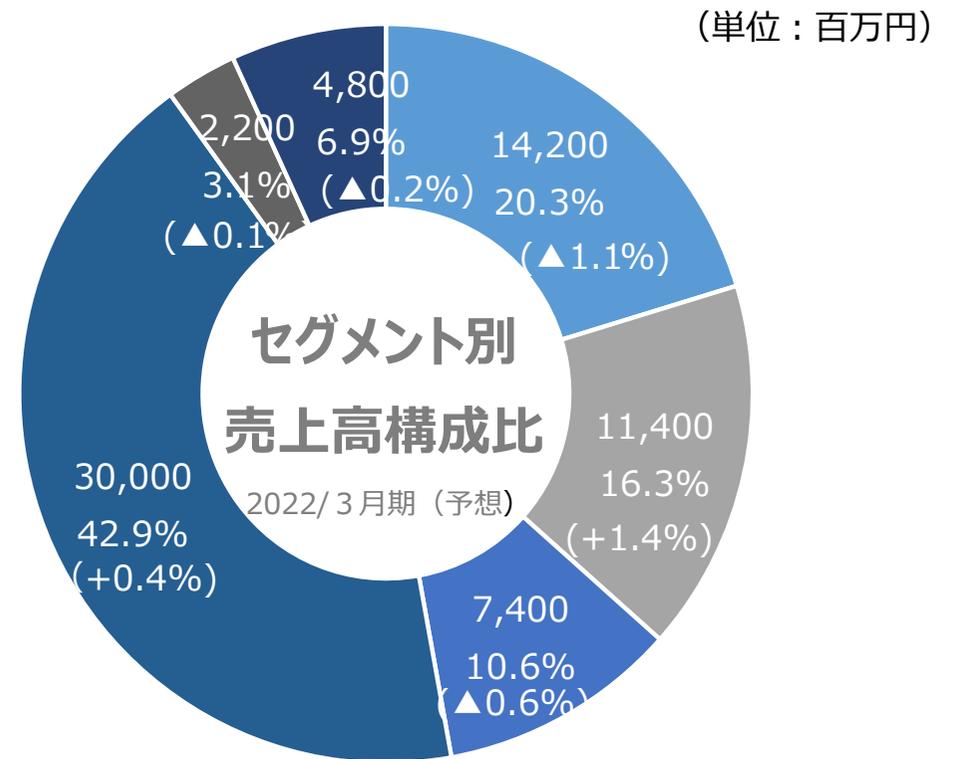


セグメント別売上高

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



() 構成比率前期増減

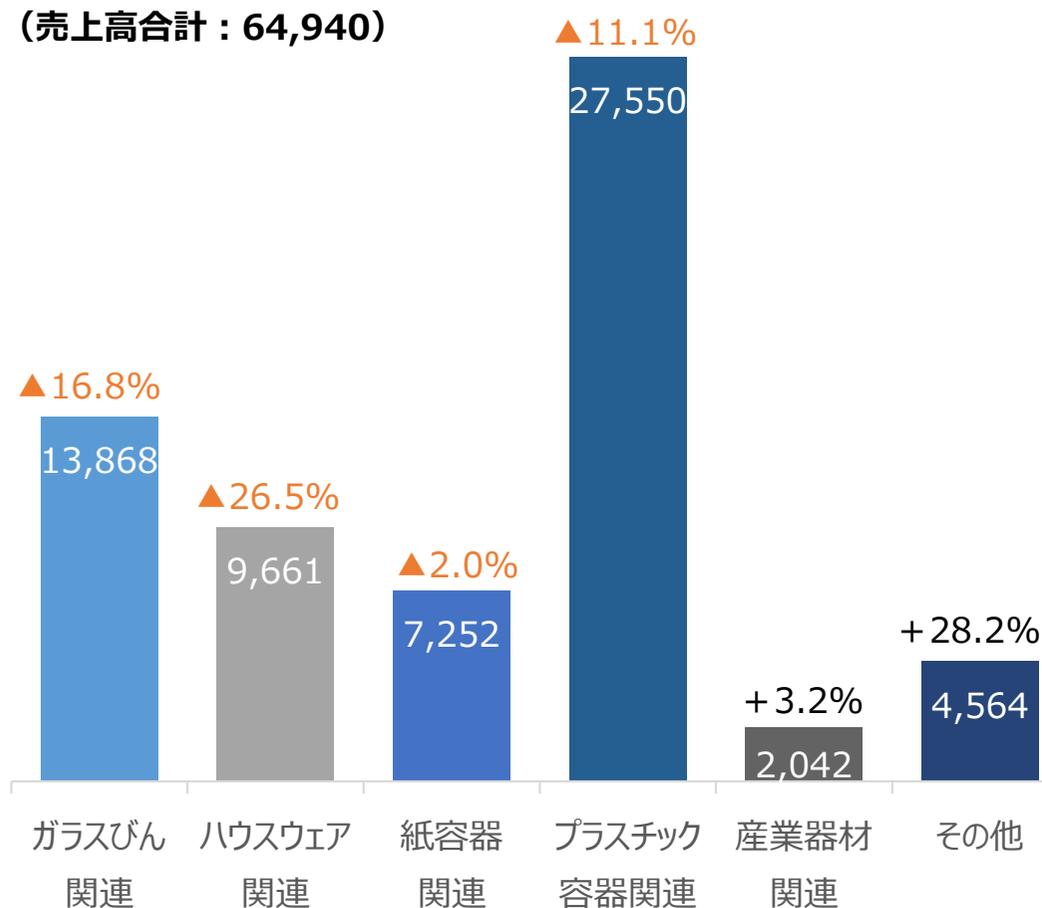
セグメント別売上高

2021年3月期売上高実績

前期比増減率

(単位：百万円)

(売上高合計：64,940)

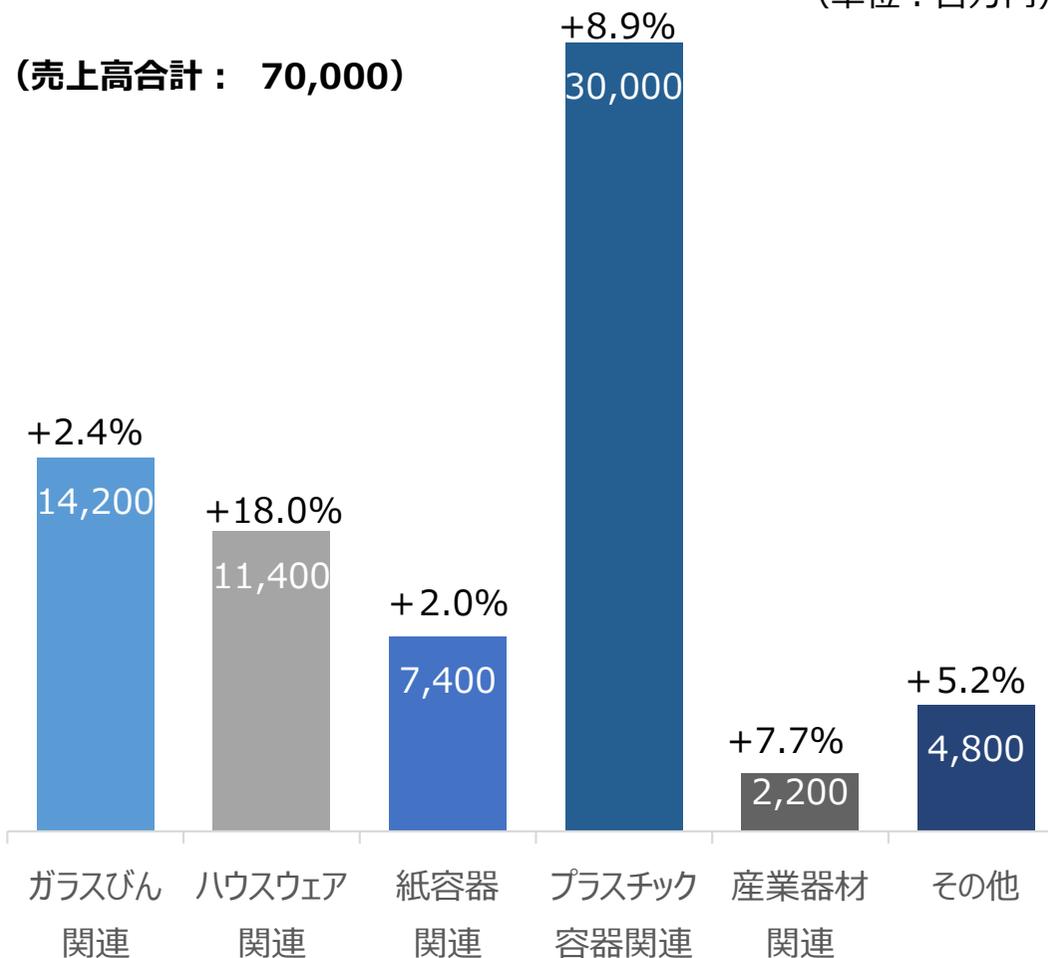


2022年3月期売上高予想

前期比増減率

(単位：百万円)

(売上高合計：70,000)



本資料についての留意事項

- 本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。